

和 MONOYA TAKIZAWA

グッズで残す「思い出の桜」

足羽川堤防のソメイヨシノ

染料など使用 ハンカチ、お香人気

福井の和雑貨店



足羽川堤防のソメイヨシノで染められて二つつ色合いが違つハンカチ（手前）や、ほの甘い香りのお香＝福井市大手三丁目の和 MONOYA TAKIZAWA で

福井市大手三丁目の和雑貨店「和 MONOYA TAKIZAWA」で、ソメイヨシノから煮出した染料を使った桜色のハンカチや、その小枝のチップを練り込んだお香が人気を集めている。桜をモチーフにした風呂敷や弁当箱、マグネット

などもあり、市内のソメイヨシノは散つたものの、店内は今も桜が満開だ。原材料は、「日本のさくら名所100選」にも選ばれた市内の足羽川堤防のソメイヨシノ。店主の滝沢直子さん（51）は二〇〇七年冬、県や市などが堤防

強化のために伐採することになったことを知り、子どもと遊んだり、弁当を食べたりと楽しい思い出が残る足羽川原の桜を「どんな形でも残したい」と、家族総出で段ボール八箱分の小枝を分けてもらった。皮から煮出した染料

で仕上げたハンカチは、桜の花びらのような優しいピンク。九州の染色工房に依頼し、毎年染めてもらっているが、職人の手染めのために一枚ずつ色合いが微妙に異なる。桜色のお香は、ふわりと漂うほの甘い香りに癒やされる、とファンが多いという。

滝沢さんは「小さいつばみがたくさん付いた小枝じゃないと、きれいな色が出ない」と話す。ハンカチ「足羽桜染」は、普通サイズが千四百円、大判が二千五百円。「足羽桜香」は千円。問い合わせは、同店＝電0776（22）2953＝へ。（北原愛）